

アスファルト舗装の滑り止について

中国地方建設局 道路工事課 正 木 昭

要 旨

最近の自動車交通の激増に伴う交通事故の原因については

次の要素が考えられる。 すなわち

1. 舗装路面の平坦性と滑り抵抗によるもの
2. 路線の線形と構造によるもの
3. 気象条件によるもの
4. 運転者の健康条件と心理状態によるもの

以上のうち2、3及び4の要素については定量的に結論が出にくい問題であり、今回はとり敢えず舗装路面の工種と滑り抵抗の関係について調査した実例をのべてみる。

滑り抵抗の測定方法としては色々考えられるが、筆者は次の3方法を用いて測定した。

- a、車輛による滑り抵抗の測定
- b、アメリカ式 Skid tester による滑り長の測定
- c、イギリス式 Skid Resistance による制動抵抗値の測定

これらの各測定値から総合的に判断すると次のことが考えられる。

すなわち

1. 車輛速度の増加につれて路面の工種に関係なくまざつ抵抗は減じてくる。
2. 湿潤時のまざつ抵抗は乾燥時に比較するとかなり減少しておりこれも車輛速度の増加につれて減じてくる。
3. 路面の工種によりとくに滑り易いという事はあまり考えらないが、路面のフラツシユしたヶ所、シーリング工ヶ所は比較的滑り易いようである。
4. コンクリート路面に比べてとくに滑り易いとは考えられない。

資料不足で確定的な結論は今後の多数の調査資料をまつ外ないが、今までのところでは以上のようなことが云えるようである。（発表資料は別に印刷の予定）

硫黄華混入アスファルト及び同モルタルの実験について

徳島大学工業短期大学部 教授 森 吉 満 助

徳島大学工学部 C助手 泉 英 世

- (1) アスファルトの混和剤として硫黄華をえらび、実験をした結果、ある一定量の硫黄華を混入したもの（8% 硫黄）が、針入度、伸度その他に、好ましい性質を示したが、耐久性（耐腐蝕）等については、今後の研究にまたねばならない。

- (2) 硫黄華混入アスファルト

硫黄華混入量の増加に伴い

比 重	増 加
引火点	低 下
針入度	上昇—下降（極値8%）
伸 度	上昇—下降（ “ ” ）
軟化点	下降—上昇（ “ ” ）

- (3) 同アスファルト、モルタル